

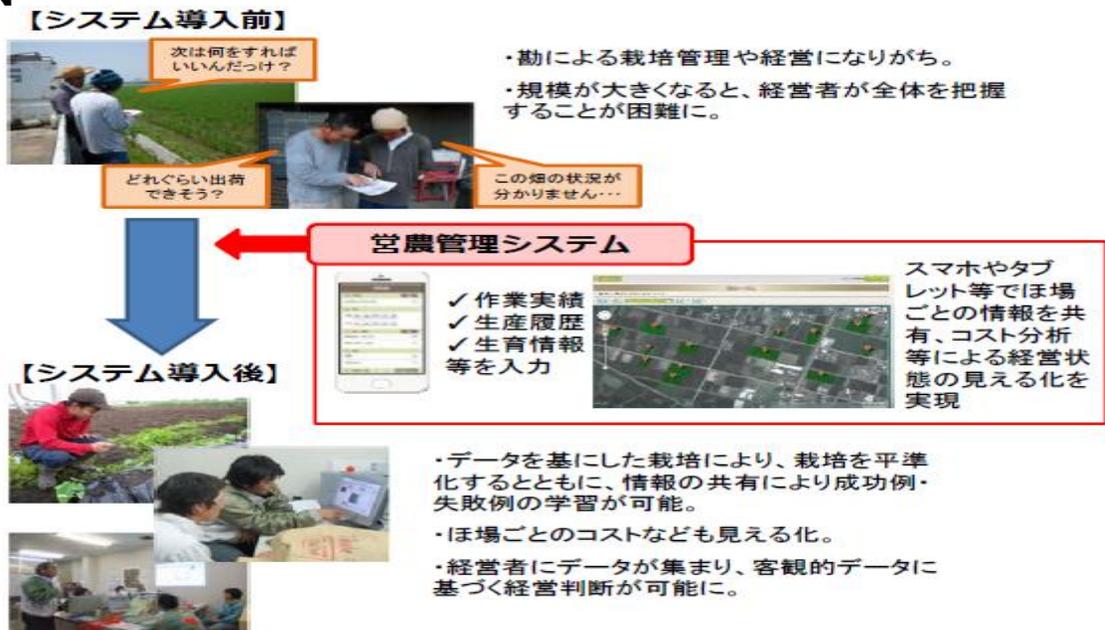
6. ICT活用による経営内容の見える化

【ICT活用による経営内容の見える化】

農業経営の規模が拡大するにつれて広域に分散する圃場を管理する必要があり、従来の経験則による生産管理が困難になるとともに、経営・生産を担う人材や後継者の確保育成が大きな課題となっている。

これらの課題を解決するため、ICTを活用して、経営内容の見える化を進め、これまで経験則を中心に行われていた農業技術や経営管理のノウハウを見える化して、これらの課題を解決することが期待されている。

【システムの概要と導入のメリット】



【先進的な取り組み事例】

全国の大規模農場ではICTを利用したシステムが導入されており、農業経営の改善に寄与している。

- ①大分県のS法人では、白ネギ、白菜、キャベツなどを栽培しているが、コスト把握による肥料費の約30%削減、作業状況の見える化による技術向上に貢献
- ②静岡県の上農場では、レタス、枝豆、白菜を栽培しているが、150筆の圃場別の生産原価管理、トラブル早期把握、スキルアップに貢献
- ③岩手県のMファームでは、経営面積57haで水稻、葉たばこ、大豆、そばなどを栽培しているが、栽培管理技術の向上、コスト縮減に貢献

普及に当たっての留意事項

- ・ICTを活用した経営管理システム、圃場管理システムは既に各社から市販されており、それぞれの経営内容や作業管理において、課題解決が可能か否か、また、運用するうえで必要コストも勘案し、有効なツールになりうるかどうか判断して導入する事が重要である。